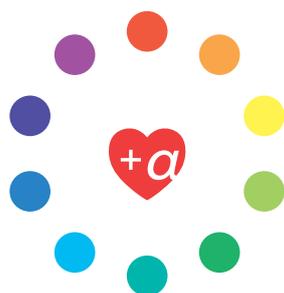


地域の居場所、子ども大人プラットフォーム。
地域資源の新しい見立て事業。



わたし +1ミリ

本業 + *a*
プラス アルファ

居てもいい場所。

本業 + a は、**地域にやさしい創意工夫**。

本業 + a は、生業と地域にやさしい創意工夫。

店主の純粋なやりたいことの延長線上の工夫が、偶然、潜在的にあった困り事と出会い解決。

結果、人のつながりになり、誰かの新しい居場所になり、生業（経済）にも好循環となっている。

また、新たに生まれたお客さんのニーズに応じていくカタチで、より進化して広がっていくスタイル。

人によって磨かれ、育っている場所でもある。

今、あなたが思い浮かべた笑顔や、いつもいく場所が**本業 + a**なのかもしれません。

+ a は、**居てもいい場所**。

+ a は居場所。つまり、居てもいい場所。

・「**自分が、誰かの役に立っていると**感じられる場所」

自分がこの場所に必要とされていて、自分がこの場を構成していると感じられると、

「ここにいていいんだ」という安心感になっていく。生きることの意味、自分自身の肯定にもつながる。

・「**ありのまま**でいられる場所」

成果を出しているときの自分を受け止めてくれるような「条件付き」の場所ではなく、

弱さやダメさをさらけ出すこと＝ありのままであることができる場所。

“おかえりなさい”と受け止めてくれ、“じゃあ、いってらっしゃい”と再出発の選択もできる場所。

ありのままの自分のまま還る場所があると、安心してチャレンジも失敗もできる。

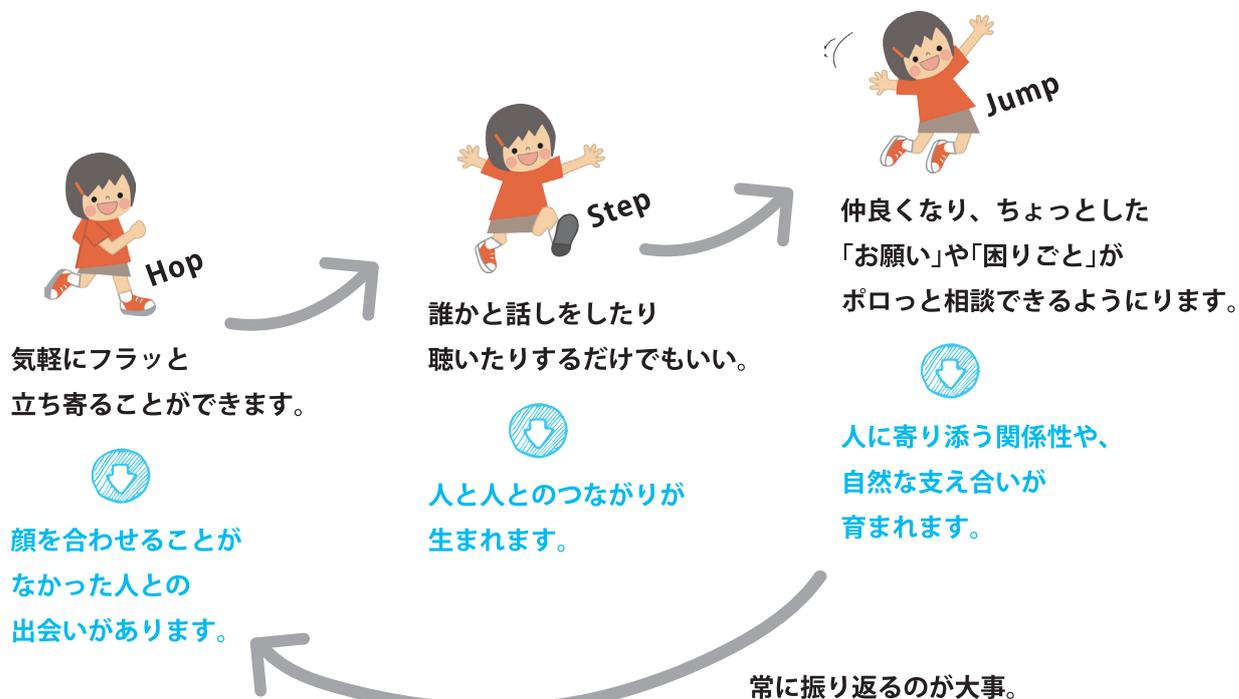
周りの人は「この人を支えられる」と自然な空気となり、周りの人に新しい「役割」を生み出す。



生まれるつながり。

居てもいい場所。から生まれるつながり。

人とのリアルな触れ合いを通して、
悩みや困りごとを言い合える関係ができることで、
自分の存在意義を感じることができます。
また信頼できる関わりは、支え合える地域を育てていきます。
世代を越えたつながりは、社会的相続を彩り豊かにします。



本業 + α

10 拠点のおまとめ。

わたしのできる **1 ミリ**。地域にある**居てもいい場所**を知ろう。

今回は、地域に店舗を構える 10 店の本業 + α をまとめてみました。

独自の創意工夫を知ること、まだ知られていない地域の拠点とつながっていくきっかけにもなります。

実はご近所のパーマ屋さんやお弁当屋さんが、そんなやさしい場所かもしれません。

居てもいい場所は、

サードプレイスの要素も併せ持っています。

家庭（第 1 の場）でも、職場（第 2 の場）でもない、居心地の良い場所（第 3 の場）



サードプレイスに共通する 8 カ条

サードプレイスの提唱者、1932 年アメリカの社会学者、レイ・オルデンバーグ。

- 中立性・・・ 個人が思いのまま出入りができ、もてなすことを要求されず、全員が心地良くくつろぐことができる中立地帯
- 社会的平等性の担保・・・ 会員等アクセスに制限がなく、様々な人々が立場を越えて入ることができる
- 会話が中心に存在する・・・ 会話が楽しく、活気で満ちている
- 利便性がある・・・ 参加しやすく、中にいる人々が協調的である
- 常連の存在・・・ いつも「新しい人」を快く受け入れる「常連」がいて、いつも心地良い空気をつくる
- 目立たない・・・ 日常に溶け込む簡素な外観（デザイン）をしている
- 遊び心がある・・・ 明るく遊び場的な雰囲気を持っている
- 感情の共有・・・ もうひとつの家、リビング、家族的な存在である

自宅に帰る前に軽い息抜きができる場所。

リフレッシュや新たなやる気を生む交流のある場所。

多様で異質な人々が自分の社会的立場を気にせず気軽に集まり交流できる場。



子ども達の集まる駄菓子屋、愛称“イケショー”。ばいばい、また来るね。



子どもが自分で計算して駄菓子を買う。挨拶やマナーなども身につく。



子ども達の成長を応援するお店。大人たちが子どもの話を聴く場所。

1、子どもとご近所を見守っている。

- 学校と家の間の第三の場所。親・先生以外の“大人サポーター”。店主が子どもと友達のような関係性。世代を越えた交流。
- 駄菓子屋で、子どもの挨拶・言葉使い・マナーなどが自然に身につく。他人の子どもでも叱ったりほめたりする文化がある。
- “子どもはマチの宝物”と、子どもと地域をつなぐ玄関口。子どもの待ち合わせ場所や居場所になっている。

2、商いを心から楽しんでいる。

- 店主がウェルカム精神で気さく。お昼から店頭でいつも居てくれる安心感がある。
- 子ども向けのお菓子や文具、ご近所のちょっとした困り事に答える“プチセレクトショップ”。ちょっとしたお取り寄せ。
- 商品を買う時、使い方やエピソード・年配者の知識や経験まで教えてくれる。

3、昔ながらの人の関わり方がある。

- 駅前に困った人が歩いていたら、お声がけて迎えるような、あたたかい雰囲気がある。
- 世代を越えて子どもたちの成長を応援。縁側のように、地域の人々のちょっとした交流の機会にもなっている。
- 昔なつかしい地域の良いつながり、地域ぐるみで子どもを育てていく文化を蘇らせようとしている。

本業+αで
育まれた
3つの成果



マチの自分のお気に入りの居場所と、頼れる大人がいる。



子どもと一緒にイケショウへ、お散歩&お買い物。



用事のついでにちょっと立ち寄り世間話。なぜかスッキリ。



店主、池田 恵美子さん

荒木生まれ荒木育ち。元は荒木駅前で100年以上続いた老舗の果物屋さん。
2007年、現在の場所に移転。焼きたてパン・駄菓子屋に業種変更。
“マチの子はマチで”地域で子ども達の成長を見守っていく支援を行って
いくつもり。『商売だけじゃ面白くならうもん。』

お客さんの
お声

イケショウはくじのお菓子がいろいろあるけんオレ達楽しか。
「ウァー 50 円買って 100 円当たった。」「100 円分好きなもんもらって
いいよ。」ちゃんとおばちゃんに見せます。ゴミはきちんとゴミ箱へ。
「バイバイ、」また来るね。

子どもたちの声

編集後記

お店に入った瞬間に懐かしい駄菓子が並んでいて、心弾みました♡
取材にも関わらず童心に帰ったかの様に真剣にお菓子を選んでしま
いました。この駄菓子は誰に買って行こうかな。と渡したい大切な
人の顔まで浮かび…こんな気持ちになりました。

取材／井元ひとみ

中津からあげ からいち

久留米市津福本町 846-3
営業時間 / 11:00~20:00
定休日 / 火曜日
0942-32-5555

からあげ屋+α

人と人をつなぐ、あったかいリビング！
誰かの心の寄り所になる、からあげ屋さん。



わたし+1ミリ



お店が広くゆったりくつろげる。



壁には筆文字のハガキ。講座やイベントも開かれる交流スペースがある。



2階はキッズスペースが充実。気にせず入りやすい。

1、子育て中のお母さんを応援。人が集まれる場所。

- 営利を生んで生計を立てながら、人が集まれる“やさしい空気”をもっている。
- 家族連れでも一人でも入りやすく、自宅のリビングのようにくつろげる雰囲気がある。
- 2階にキッズスペースがある。家族連れや、パパと子どもだけでもゆっくり食事ができる空間になっている。

2、市民活動も行われている。

- お客さん一人ひとりを温かく迎える空気と、おもてなしの心がある。
- 唐揚げが安くて美味しく、お店に入りやすい。絵葉書教室など、関わりやすい内容と料金設定。
- ボランティア活動を応援。定期的に、がんの患者さんに“タオル帽子”をお届けする市民活動も行われている。

3、人と地域に優しいお店。

- お客さんが重ならない時は、店主がホールに顔を出し、こまめにお声がけをしている。
- 暮らしの中のちょっとした困り事・悩み事を話せるあったかい空気がある。
- 定期的に来られる常連さんが多い。子どもからお年寄りまで、お客さんの小さな変化を察知してお声がけをしている。

本業+αで
育まれた
3つの成果



子どもと一緒にゆっくり安心して食事ができる場所がある。



美味しい唐揚げや、いりこからとったお出汁のお味噌汁、食育の機会にもなっている。



店主に会って話すとホッとする。人と話していく“つながり”が育まれる。



店主、川上みゆきさん

前職の組合員活動担当 22年、ボランティア歴 20年。
“人と人がつながる機会”“居心地のいい空間をつくりたい”と
2017年7月、中津からあげ「からいち」久留米本店をOPEN。
“唐揚げ買って、お茶して、誰もがホッとする場所”になったらと笑う。
食育の考え方で生まれた、具沢山のお味噌汁とレバー煮も好評。

お客さんのお声

2年前に初めて立ち寄りました。気さくな店員さんと、ゆったりくつろげる店内、子ども用のおもちゃがあり娘のお気に入り。娘は砂ずりの唐揚げと具沢山のお味噌汁が大好き。居心地が良すぎて毎回のように『帰らない』と言う娘をなだめて帰ってます。 中村千穂

編集後記

唐揚げとお肉が苦手な7歳娘が、ここの唐揚げはパクパク食べます。「からあげ苦手じゃなかった？」と聞くと「だって、ここの唐揚げ美味しいもん」と、いつのまにか、私の分まで食べてしまいます。仕事帰りに、月に2度ほど買ってます。 取材/井元ひとみ



倉庫を改装したオシャレ空間、気兼ねなくくつろげる空間。



2階はフリースペースとして貸出し。“やりたい”を実現していく場所。



絵本が置いてあり、子どもに貸し出しを行っている。

1、地域のサードプレイス（第3の場）。

- 自宅に帰る前に寄り道したい場所。気持ちをリセットできる空間。自由にのんびり過ごせる時間がある。
- 一人で来られるお客さんも多く、人と人のちょうど良い距離感が配慮されている。心の余白がつかれる、ゆるい雰囲気。
- 様々なコミュニティで人との交流も選択できる。新しい発見や自分のセンスを高めていける出会いがある。

2、人が関わりたくなる空気がある。

- 店主が元保育士、人と会話好き。頼れるお姉さんみたいな役割。高校生になった教え子の、将来の悩みや恋愛話なども。
- お店が自由。遊び場の。知り合った画家さんがメニュー表を作り、2階は外国人教師と一緒にリノベーション。
- 新しいお客さんを歓迎する常連さんが多い。常連さんが気さくで心地いい空気をつくっている。

3、ひろがるつながり。

- 子どもからお年寄りまでお客さんの価値観も多様。他の人を認め合う文化があり、フラットな交流が育てられている。
- いくつもの楽しい会話が溢れている。お客さん同士のコラボレーションが生まれるワクワク感がある。
- 何かをやりたい人の背中をそっと押すカフェ。地域の新しい出来事をつくっている。

本業+αで
育まれた
3つの成果



フラットな中立な立場で関わる対話空間。お互いの想いでつなげる文化がある。



子どもも大人も、自分の子も人の子も、自分も相手も許し許される環境。



人の夢を実現することをお手伝い。直感や感覚で動く楽しさがある自由空間。



ひるお あさみ
店主、日比生 麻実さん

元保育士。“みんなが楽しめる、緩やかに平和に過ごせる場所”と倉庫だったところを改装したカフェ。ゆったりくつろげるソファ、お洒落なインテリアや雑貨、手作り感あふれる居心地のいい雰囲気。若い人からお年寄りまでお客さんも多様。プリンが絶品。オーナー自身が“ワクワクする”を基準に、マルシェやワークショップ、イベントを開催。

お客さんの
お声

店主のあたたかさが人を寄せ付けるゆったり空間です。わたしのオススメはスパイスの効いた焼きカレー。トロトロチーズが乗って食欲倍増。人と人をつなげてくれる場所で、自然とたくさんの方々と交流できていい刺激もらってます！

ゆりこ

編集後記

お洒落で気軽にに行ける雰囲気があるカフェです。麻実さんもスタッフさんも気さくで自由。ゆるい雰囲気。ほんわかします。お子さん連れの方には、食事中に抱っこしようと声を掛けたり。なぜかパワーをもらえちゃいます。プリンも絶品です。取材 / 溝尻博子

の お と 八百屋カフェ 農と音 nooto

久留米市諏訪野町 2570-9 高村ビル 1F
営業時間 / 17:00~23:00
定休日 / 木曜日・日曜日
0942-80-5125

カフェ+α

優しさと厳しさと、良い意味でイイ加減。

深みのある大人が集う、人間味溢れるカフェ。



わたし +1ミリ



夜間は電飾で輝く場所。“料理は誰と食べるか”で機嫌をつくる場所。



音楽収録スタジオ? カフェ? 38 発のスピーカーと防音空間。



定期的に、地域の人が様々な“肌感のある情報発信”する拠点。

1、人と人のつながりを大切にできる場所。

- 農家だからできる“自然栽培”のお米やお野菜など、生命力に満ちた“食の驚き・食の考え方”を提供。
- 店主の思考が柔軟。誰に対しても丁寧な姿勢。人との違いを愉しむ文化がある。
- 想いで人と人を引き合わせ紹介している。さりげない気遣いが絶妙。初対面の人とも有意義な対話ができる。

2、成長していく出来事がある。

- 一人ひとりの時間も尊重し、心からリラックスできる空気感がある。ささいなことも相談できるカフェ。
- あと一歩を踏み出す勇気を応援。『大丈夫』と背中を押している。成長に必要な問いをフィードバックしている。
- 自分のスタイル・信念を持つ“カッコいい大人”が立ち寄る。どんな時も“笑って生きていく”関わり方。

3、地域に新しい“素敵”をつくりだす拠点。

- ミュージシャンたちの力を、地域の新しい資源にしていく拠点。地域文化と音楽の質の向上をバックアップ。
- 地元愛と人生を豊かに楽しむアイデアを、WEBで情報発信。地域メディアをつくる拠点。
- 知恵を出し合い、能力を持ち寄り、みんなで“地域を愉しむ仕組みづくり”イベントを企画運営している。

本業+αで
育まれた
3つの成果



音楽を謳歌する人の自由空間。成長、自信、人生の豊かさは自分でつくる。



人と会うのが楽しみになるカフェ。今と地域の未来をつくる“フラットな社交場”。



ご近所の店主たちも立ち寄る場所。地域をつなぎ、結果、通りに街灯が灯った。



店主、デボラさん（権藤和尊さん）

宮ノ陣生まれ。元大手家電メーカー、量販店マーケター。プロミュージシャン。
2011年、東日本大震災後「農業をやろう!」と、久留米に帰郷。
祖父の畑を受け継ぎ“自然栽培”農家に。2016年、諏訪野町に農と音を開店。
ミュージシャンを中心に、新しい才能を育てていく場所をつくる。
久留米駅東エリアのお店と人をつなぐ、裏方のプロデューサー。
2018年、西鉄東口で資金ゼロからの手作りイベント「未来図カフェ」を開催。

お客さんの
お声

初めて行った時ここは何屋さん?と不思議な印象でした。店主も食べ物もすべてがやさしく、お客さん同士も自然に話していて、いつの間にか一体感が生まれていました。色んな大人と会えて、また行きたくなる場所です。ちゃんぽん絶品でした。

溝尻博子

編集後記

デボラさんは、おだやかで自然体。人の希望や心の奥に寄り添うよき隣人。お店には心意気の良い人が集まる。多様な人たちがフラットな関係で、立場を越えた面白いコミュニティになっている。なぜか人が成長していくドラマが多く生まれる場所。

取材/木村真也



パンの発酵の時間に、本の読み聞かせ。母子の幸せを願う。



パン教室は講師の自宅で行われる。アットホームな環境。



子どもはママと一緒に作りたい。すぐ横がキッズスペース。

1、親子間のきずなを見守るパン教室。

- 子どももママと一緒にパン作りができる“親子パン教室”。子連れ赤ちゃん連れ OK、ママだけでも花嫁修業も OK。
- 親子のきずなづくりや一生宝物になる思い出に。母親が一番子どもに与えたい“愛情を伝える時間”に。
- 季節感に合わせたパンや、絵本の読み聞かせをしながらその中に登場するキャラクターをパンにしている。

2、必要な知識や方法を、体験で伝える学び場。

- 五感を通じてパン作りの奥深さを伝えている。手作りのハードルを下げ、子どもの“作りたい気持ち”を育てている。
- 子どもと一緒に、自宅で手軽にパン作りを再現できるように配慮されている。家族の会話がはずむ工夫も。
- 手ごねから発酵させパンを作り、体験で自然の摂理を学ぶ機会に。子どもたちの“生きる力”を育てている。

3、親子関係のメンタルケアにもなる第三の場所。

- 講師は裏方にまわり、親子の時間を見守り、親子関係を大切にしている。お互いの会話を聴いている。
- 育児や母子間のささいな相談もできる雰囲気がある。子どもの個性にあわせた、就園相談なども。
- “親子のありのまま”を受け止め、心に寄り添う。親子関係を見つめ直す、リフレッシュの機会になっている。

※自宅開放型の教室の為、パパの参加は受付していません。

本業 + α で
育まれた
3つの成果



子どもがパンづくりにハマリ、家庭でも子どもが主体的にパンを作るようになった。



親子の新しい一面を知ることになりリフレッシュ。家庭の会話が増えた。



パンづくりは趣味程度であったが、次第に自宅で本格化。新しい生きがいに。



講師、山田 弥佐さん

保育士歴 14 年。一児の母。きっかけは障害をもつ方が作った手作りパン。美味しさに感動し、就労支援のパン屋さんにて修行。2018 年 6 月に夢だった親子を幸せにするパン教室を開く。「Peek a boo!」は英語でいないいないばあという意味。母が子どもを笑顔にしたい一心で「パン作り」を応援している。

お客さんのお声

子どもが 4 人います。毎回違うパンが作れる為、一人ずつ連れて行きリピーターになりました。パンを作り終えるのに 3 時間程、1 人の子どもの為だけに過ごせ、子どもの凄く集中する姿や、いつもと違う表情など沢山見れてママとしても嬉しく思いました。

信國奈美華

編集後記

「ただの」親子パン教室ではありませんでした。材料を混ぜる。こねる。形をつくる。焼く。パンづくりの全ての工程が、みさ先生の育ち合う親子にプレゼントしたい安心と愛が詰まっていた。ホクホクの親子の居場所だな♡

取材 / 中村路子



子どもも大人と一緒に学ぶ環境。世代を越えて、学びが深まる。



集中できる和風の空間。表現していく自由な発想も身につけていく。



内面の美しさ、上品さ、立ち居振る舞いをグレードアップ。

1、内面からの美しさを学ぶ、良い気がある場所。

- “書道”を通じて、人の美しさを学ぶ場になっている。“生涯磨き続ける学び”として長年通われる生徒さんが多い。
- 先生が人の成長を信じる思考で、チャレンジ精神が旺盛。先生の“人を輝かせたい”という信念に共感する人が多い。
- 所作、立ち居振る舞いを整え、愛情のある言葉遣いが身につく。やわらかな心を育む“人間力を磨く”機会。

2、人生を美しく生きるヒントがある。

- 心のごわめきを静め、心を整える空気感。無心で取り組み、遊びのようにのびのび取り組める空気感がある。
- 凜とした美しさを持つ“魅力的な講師たち”が多い。上品で丁寧な生き方を学ぶ良い見本になっている。
- 学び成長したい気持ちに寄り添ってギアアップ。人の“本来ある宝”を伸ばして自立（講師になる等）までのサポートを行う。

3、地域に“魅力的な人”をつくりだす拠点。

- 学びたい人の相談に乗り、講師を紹介している。人のご縁を深めて、人の器を広げていく機会をつくっている。
- 講師同士のコラボが試され、ジャンルも講師や生徒の立場も越えて学び高め合う“学びの社交場”になっている。
- “みんなで応援する”横のつながりがあるコミュニティ。夢を応援するドリームサポーターが多い。

本業+αで
育まれた
3つの成果



人との交流が苦手だった女性が心理学を学び、今では人前で教える講師に。



地域の華道の先生とコラボレッスン。ハイクオリティの生涯学習を見据えている。



男性の生徒さんは最初は黙々と習字をしていたが、今は世間話をするようになった。



書道家、江口掌花さん

4歳より書道始める。書道師範取得後、書塾を運営し指導しながら、筆文字や筆素材を活かした独自の作風でデザインを展開、様々な活動を続ける。久留米市城南町のアトリエでは、書道教室をベースに、異業種の講師と“集い・学び・高め合える”様々なコミュニティと癒しの空間を提供。受ける側から、与えていく側へ、良い意味で影響力を持つ人を育成している。

お客さんの お声

お習字に通い、掌花先生やお習字メンバーと話したり、一緒に色々なレッスンを受けることで刺激を受け、自分を高めることができました。自分自身をみつめなおし、目標を持つこともでき、毎日が楽しいと思えるようになりました。

田中瑞恵

編集後記

私の子どもの頃に習った習字教室のイメージとは違った良さを感じました。この雰囲気の中で習字を習うと自分がちょっと大人な気分になれそうと感じました。様々な先生がいるので、私にあった強みが見つかるとも思いました。

取材/井元ひとみ

久留米市津福本町 116-44
営業時間 / 09:00~18:00(月~土)
09:00~12:00(日)
定休日 / 不定休 ※お電話でご確認を。
0942-34-9830

女性の“心のギアアップ”ができる場所。

地域のつながりをつくる“大人たちのサロン”。 わたし +1ミリ



スタッフが元保育士。赤ちゃんや子どもと一緒にに行ける“まつ毛エクステ”。



四季折々の草花が楽しめ、五感で感性を磨ける。くつろげるお庭。



作家さんのハンドメイドが想いと一緒に紹介されている。

1、アットホーム。癒やしの“異空間”。

- まつ毛エクステは一人ひとりを尊重し、丁寧に向き合う時間になっている。小さな変化を継続的に見守っている。
- ゆっくりと余韻を楽しむティータイムで、会話が生まれている。子育てや家庭の相談など、ホッと心をゆるめる場所。
- 自宅全体がモデルルーム。暮らしにプラスできるアイデアやヒントがある。リラックスできる空気感。

2、みんなでスタートを見送る拠点。

- オーナーやスタッフがオープンな考え方。人それぞれの“本来ある可能性”を応援し、伴走していく姿勢。
- 一人ひとりの叶えたい夢を“具体的な一歩にする”機会をつくっている。必要な“心・大切な気づき”をフィードバック。
- 学ぶ人から教えるプロへ。興味から生業へ。一緒に考え価値や質を高め、自立までサポートをしている。

3、多世代、他業種を越えて交じり合う“大人たちのサロン”。

- 小さな命を応援する“おむつケーキ”、作家さんのハンドメイド作品、農家さんの野菜など、良い紹介・販売をしている。
- “コミュニティの枠を越えたつながり”も大事にし、想いをもった講師やクリエイターを紹介。出会いをつむぐ拠点。
- 生まれる前の相談から、つながりの中の看取りまで。数多くの“人生を見守るやさしい物語”が育まれている。

本業+αで
育まれた
3つの成果



ママが笑顔で楽しむことで、子どもや家庭も笑顔になる。2人目3人目が誕生。



約1,000人のお客さんとご近所がつながり、新しい出会いやワークショップを開催。



つながりの関係性の中で、3人の看取りを行ってきました。



お客さんの
お声

SORAには、まつエクやネイルで通っています。自分の刺激になり、毎回、学ぶことがたくさん。とっても大切な時間になっています。我が子も保育園時代からSORAに携わっています。久留米に住んでの方がSORAを知ることは絶対にメリット！だと思います。 島田敦子

編集後記

SORAさんには沢山の鏡がある。少し未来のキラキラした自分の姿が映っている鏡。スタッフだけでなく、集まる人のポジティブな気が充満している。人生って自分で創っていいのよ！と、心の充電をして、一歩踏み出してみようと思える場所です。

取材/廣岡睦

オーナー、SORAさん(左、村谷純子さん)

元保育士。2007年、乳がん患者さんのお声から、まつ毛エクステを始める。村谷さん自身も7年前がんを克服。“ママたちのくつろげる空間を”“地域に笑顔のママを増やしたい”と、2011年、津福本町に自宅全体を使って、女性たちの夢をみんなで支えていく美容サロンをつくる。“人とのつながりが、これからの時代を生き抜く力になる”と、人づくり・地域の仕組みづくりに関わっている。



キッズスペースの中でランチできるようなカフェ。おもちゃも沢山。



手作り作家さんを応援するスペース。アクセサリやキッズ雑貨など。



久留米大学のダンスサークルの学生が、キッズダンス教室を開く。

1、子ども連れのご家族への心遣い、古民家カフェ。

- キッズスペースのあるお座敷でランチ。小さい子どもを遊ばせながら、ママが安心してゆったり外食できるカフェ。
- 子どもの月齢で、お布団や椅子を準備。授乳&おむつ交換スペース、一時預かり・月極保育もできる託児所も併設。
- キッズメニューが豊富。子どもの料理を先に持って来てくれる。ミルクのお湯、味付け薄めうどん柔らかめなども対応。

2、子育て中のママパパがリフレッシュできる時間がある。

- オーナー姉妹が気さく。楽観的でプラス思考。“いつも楽しそう”と生き方や、人柄の良さに共感するお客さんが多く集まる。
- あたたかい家庭的な古民家スタイル。子どもとママパパの“嬉しい空間”を目指して、姉妹でリノベーション。
- 子どもとママの出会いの場。知らない子ども同士と一緒に遊んだり、新しいママの良いつながりが自然に生まれる環境。

3、女性たちの活躍で溢れる大人子どもの駅。子育て環境づくりへ。

- ハンドメイド作家さんの表現の場と活動をバックアップ。オーナーも一緒になって売り場づくりを愉しんでいる。
- 妊産婦の孤立、出産直後の心身ケア、子育てのちょっとした困り事など、“ゆるい交流”で解決につながっている。
- 子育て中のママの“何かをやりたいと思う気持ち”を同じ母親の観点から応援。女性が働きやすい環境を増やしている。

本業+αで
育まれた
3つの成果



栄養と食べやすさを考えたキッズメニュー。子育てに役立つ食育を学ぶ機会にも。



起業を応援するレンタルスペース。自分の力でチャレンジする人を、宣伝も含め伴走。



筑紫野2号店オープン後、美容室やマッサージ店などママが働く機会を作り出す予定。



オーナー、(左、妹) 安本佳那子さん (右、姉) 大野絵梨子さん

鳥取県出身のオーナー姉妹。姉の大野さんはインテリア好き。Webデザイナーを経てイメージしたものを創り出す。シェアルームで多様な人と暮らした経験から、オープンで柔軟な思考を持つ。妹の安本さんは接客好き。大阪でBARの店長を経験し、飲食店の運営と味覚を養う。2016年にCoco cafeオープン。世の中にママたちの嬉しい場所をいっぱいつくる。と、様々なチャレンジを実行中。

お客さんの
お声

初めて行った時に、キッズスペースが全面的にあってビックリ！
いい意味で気を使う事なく、ゆっくり過ごせ、交流の場にもなり、
ランチもリーズナブルですごく気に入って常連になりました。
Coco カフェを筑紫野にも作ってほしいと思いました！

天本佑三

編集後記

愉快的な生き方が、子育て中のママたちの希望になり惹きつけている。
古い民家を“隣のトトロの家”に見立て、オシャレな古民家カフェ
に改装。今も成長・拡張し続けるゆるい空間。姉妹の目指している
Coco タウンの夢を応援したくなります。

取材/木村真也

久留米餅
駄菓子

にしはらいとてん
西原糸店

久留米市中央町 35-1
営業時間 / 10:00~19:00(月・水木金土日)
定休日 / 火曜日・祝日
0942-34-1861

久留米餅と駄菓子+α

100年後の未来に伝統を紡いでいく西原糸店。
地域全体を豊かにしていくやさしい拠点。



100年以上続く老舗。大切なものを守りながら変化し続ける姿がある。



子どもは駄菓子、大人はお洒落な久留米餅と、魅力が調和する。



伝統を未来に繋ぎ、地域を見守る拠点。11月あきない祭の朝の様子。

1、久留米餅と駄菓子、誰もが立ち寄りやすいお店。

- 久留米餅と駄菓子。0歳児から若者、高齢者まで楽しめる品揃え。異なる価値観が交じり調和する空間です。
- 駄菓子は地域の子どもの接点。駄菓子を使って計算の練習、挨拶・言葉使い・マナーなど、生きる知恵が身につきます。
- 餅のオーダーメイドやリメイクなど、伝統を大切にしながら、新しいチャレンジが行われています。

2、第2の家のような、まちの居場所。

- お母さん、健太さん、志乃さん、それぞれ人柄や品の良さを感じる、アットホームな雰囲気です。
- 世間話からちょっとした人生相談まで、ぼろっと話せるやさしい雰囲気があります。
- “ただいま”と帰れるようなお店。気楽に寄り道できるまちの居場所。ご近所の見守りにもなっています。

3、あきない通りの店主たちと一緒に街全体を動かしていく。

- 創業1917年100年以上続く老舗。久留米や餅の歴史や想い、織元さんや作り手さんの心意気を伝えています。
- 餅の良さを伝え、新しい価値をつくるフラッグシップ。お客さんのご希望に寄り添い、他の餅店を紹介することも。
- 毎年11月、通りの店主たちを中心に“あきない祭”を開催。通り全体の『まちの絆』になり交流が活性化しています。

本業+αで
育まれた
3つの成果



駄菓子を通じて、地域の子どもの挨拶やマナー、計算力の向上につながっている。



挨拶から始まるご近所のお声がけで、高齢者の方の笑顔や生きがいにつながった。



餅の文化のひとつの交流駅。昔→今→未来を紡ぐチャレンジが行われている。



5代目

店主、西原佳江さん(左) 西原健太さん(中) 西原志乃さん(右)

大正6年(1917年)創業、今年で創業103年目を迎える久留米餅と駄菓子のお店。久留米餅のおはんかちなどの小物から、バッグ・お洋服・ストールや日傘などの商品を販売。オリジナルでの商品開発や、オーダーメイドでお仕立てするタキシードやスーツ、リメイクなども手がける。駄菓子の販売を通して、幼児から高齢者まで幅広い年齢層のお客様が訪れる店となっている。

お客さんのお声

家や学校には居場所がないが、この店では話を聞いてもらえて、自分の存在を認めてくれる。ここは僕にとって癒しのお店です。

高校3年生 男子

編集後記

かすり・・・正直昔のイメージがありました。私には遠いイメージでしたが、店内に入ると沢山のオシャレな商品があり心がワクワク。店内のホッとできる優しい雰囲気、つい時間を忘れてしまいました。子どもから大人まで癒やされる空間でした。

取材/井元ひとみ



世界感に誘う外観。上質なモノづくりとの出会う場所。



丁寧に一針一針作られていく工房。オーダーが続く。



モノづくりを通じて新しい関係を結んで行く場所。親子やカップルが多い。

1、本革の職人が純粋にモノづくりを愉しんでいる。

- 本革専門店という安心感。本革のオーダーやメンテナンス、革製品を作る体験、職人育成のスクールと接点が多い。
- 店主が純粋にモノづくりを愉しんでいる。お客さんがイメージしたものを一から作ることも得意としている。
- お客さんの希望に寄り添いしっかり聴いている。背景にある人生観を聴くことも。心の通った革製品が生まれ出される。

2、人のクリエイティブ能力が育つオシャレ空間。

- 店主やスタッフがオープンな考え方。それぞれの“人の本来のクリエイティブな能力”を信じて応援していく姿勢。
- 端布まで大切に活用され、モノを丁寧に使っていく考え方がある。人生にある豊かさに気づく機会になっている。
- ほどよくデザインされた空間。明るく遊び場的な雰囲気を持っている。楽しい会話が生まれるゆるい空気感がある。

3、体感して関係性も育まれていく。

- 一緒に使えるモノをつくっていく思い出つくりの側面があり、親子やカップルの関係性を育む機会になっている。
- 後進の職人の育成を行っている。モノづくりの技術の奥にある心や、お客さんとの価値づくりの部分も伝えている。
- 本革仕立て職人につくる革製品が人をつなげ、人の居場所やコミュニケーションツールになっている。

本業+αで
育まれた
3つの成果



クリエイティブなモノづくり体験が、人の関係を進めるコンテンツになっている。



世界で唯一の高品質のモノがあり、地域の憧れの対象になっている。



質の高い職人文化を広げていく起点となっている。



トータルクリエイター、ますだじゃりさん

1978年生まれ、福岡県三浦郡出身。趣味スノーボード。
2003年革職人を志すことを決意。レザークラフトのスペシャリストのもとで手縫い、カービングを学ぶ。2005年 革ノ花宗を設立。
2016年津福駅東側に移転。2018年『LEON』に掲載。
2019年レザークラフト体験教室をスタート。かけがえのない愛着のある大切なものとなってくれることを願い、革製品を作り続ける。

お客さんの お声

革の特注スマホケースを愛用していて、会った時に磨いて貰ってます。じゃりさんは、同性から見てもカッコいい存在。友達がジャンルを越えて多く、人を惹きつける魅力を持っている。誰よりも努力している職人肌。いつもいい刺激をもらっちゃう関係です。 山口りょうこ

編集後記

取材中に、私の尊敬する彫金師の父の考え方に近いと思いました。作ると同様に、メンテナンスと修理も大切にします。職人が心を込める人生に寄り添う品。きっとお客さんにただ喜んでもらうために生きてるなど。愉しんでいる品には人が寄ります。 取材/木村真也

中津からあげ からいち

久留米市津福本町 846-3
 営業時間 / 11:00~20:00
 定休日 / 火曜日
 0942-32-5555



ぴーすそうこ café Peace 倉庫

久留米市津福本町 249-38
 営業時間 / 11:00~19:00 (18:30L.O)
 定休日 / 火曜日
 080-3186-8100



美容サロン そら みんなのサロン SORA

久留米市津福本町 116-44
 営業時間 / 09:00~18:00 (月~土)
 09:00~12:00 (日)
 定休日 / 不定休 ※お電話でご確認を。
 0942-34-9830



の お と 八百屋カフェ 農と音 nooto

久留米市諏訪野町 2570-9 高村ビル 1F
 営業時間 / 17:00~23:00
 定休日 / 木曜日・日曜日
 0942-80-5125



キッズ& ベビー ココかふえ リリーふ カフェ Coco Cafe -relief-

久留米市御井町 1657
 営業時間 / 1st 10:30~13:00 2nd 13:00~15:00 (月~日)
 17:30~21:00 (金・土のみ)
 定休日 / 不定休 ※お電話でご確認・ご予約を。
 0942-41-1155



ぴーかーぶー 親子 パン教室 Peek a Boo!

久留米市津福本町 502
 営業時間 / 10:00~13:30
 定休日 / LINE で配信
 090-7581-0037



にしはらいとてん 久留米緋 駄菓子 西原糸店

久留米市中央町 35-1
 営業時間 / 10:00~19:00 (月・水木金土日)
 定休日 / 火曜日・祝日
 0942-34-1861



書道教室 カルチャー スクール ふであそび アトリエ fude-asobi

久留米市城南町 19 番地 32
 定休日 / 不定休 ※お電話でご確認を。
 090-8347-1243



かわの はなむね 本革専門店 革ノ花宗

久留米市津福本町 1649-4 みなとビル 103
 営業時間 / 11:00~19:00 (月火水金土・第 2.4 日曜日)
 定休日 / 木・第 1.3.5 日曜日・祝日
 0942-55-9363





わたし +1ミリ

わたしのできる + 1ミリを探そう。

わたし +1ミリ ロゴに託された、あり方。

レインボーカラー… 新しい希望。明るさ。

10色… 多様性。十人十色。1から10まですべて。

文化や考え方の違いは、やさしい地域資源。

円環… 持続可能性。質の高い好循環。オープンな相互扶助。

特定のコミュニティや共同体の境界を越えてつながっていく

波紋のように広がっていくイメージ。

愛とユーモア、やさしい想像力。

今までの枠を越えて、創意工夫をすること。

地域全体を 私達の暮らしを豊かにするコミュニティ空間として見立ててみる。

わたしのできる +1ミリって何でしょうか？

業務委託

子ども大人プラットフォーム事務局／みんなのサロン SORA

tel: 0942-34-9830 / mail: sora_1166@yahoo.co.jp